

読売新聞 きょう（2月27日）のイチ押し

1面・社会面など 緊急事態宣言 6府県 あすで解除

政府は26日、新型コロナウイルス対策として10都府県に発令している緊急事態宣言のうち、大阪、京都、兵庫、愛知、岐阜、福岡の6府県を今月末で解除することを決定しました。

- ★ 首相官邸で開いた政府対策本部で、3月1日以降の宣言の対象地域を10都府県から首都圏4都県に変更することを決めました。
- ★ 解除後も、大阪府は3月1日から21日まで、時短要請を大阪市内に限定して継続、営業終了時間は1時間延長して午後9時までとします。
- ★ 京都府は府内全域での時短要請を3月1日から7日まで、営業終了時間を午後9時までに緩和し、京都市については14日まで時短要請を続けます。兵庫県も3月1日から7日まで、県内全域での時短要請を午後9時までに緩和して継続します。

1面・運動面 五輪「無観客」想定せず 橋本組織委会長

東京五輪・パラリンピック大会組織委員会の橋本聖子新会長が26日、東京都内で読売新聞などのインタビューに応じ、無観客での大会開催は現時点で想定していないことを明らかにしました。

- ★ 「新型コロナウイルスの感染状況にもよるが、他の大会は観客を入れていて、なぜ五輪・パラは入らないのかと思われる」と述べ、観客を入れた形での開催を目指す考えを示しました。
- ★ 観客の受け入れについては、国際オリンピック委員会（IOC）などと協議した上で、3月下旬までに方向性を示す意向を明らかにしました。
- ★ スポーツ面（25面）で、インタビューの詳細を掲載しています。

他紙と比べて

読売新聞社などが主催する「生命（いのち）を見つめるフォト&エッセー」。第4回のフォト部門には、全国から過去最多の4154点の作品が寄せられました。生き生きと命の輝きにあふれた13点の入賞作品を、カラー紙面（21面）で紹介しています。

